地域·対象者	対象者数	追跡期間			カテゴリー毎の相対危険度、SMR/SIRなど					
			化合物	検討された交絡要因	1	2	3	4	P trend	
Saracci R, 1991 オーストラリア、オーストリア、カナダ、デンマーク、フィンランド、イタリア、オランダ、ニュージーランド、スウェーデン、英国の複数のコホートを使用。 後ろ向き研究	18390名 (16863男性、 1527女性) 曝露群13482、 たぶん曝露群416、 非曝露群3951、 不明群541名	1955-1988 (各コホートにより 異なる)	クロロフェノキシ 除草剤 (2,4-T、 2,4,5-T、 2,4,5-TCP、 2,4,6-TCP、 2,4-DCP、 2,4-DP、2,4-DB、 2,3,4,6-TeCP、 MCPA、MCPB、 MCPP、PCP、 PBA)		時 た ま	MR (95%CI) (観察 暴露群:367 (100-6 こぶん曝露群:0 (0 ⊧曝露群:0 (0-123 5明群:0 (0-18444	940) (4) 9-12296) (0) 80) (0)			
Strohsnitter, 2001 米国の4つのコホート (Mayo Clinic cohort, Dieckmann cohort, Women's Health Study cohort, Horne cohort)	3613名 (曝露1709、 非曝露1904)	1978-1994年	DES	フォローアップ期間、 フォロー開始年年齢、 光工時の母親年、 教育、 母親撃鬼、 伊留曜原体、 出生時の出産 一 田生時の出産 の出産 で、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	睛	IR 暴露群2.27 (0.27-8. 钅曝露群4.39 (0.89	,			
Titus-Ernstoff, 2001 米国、ボストン Mothers Study cohort (80年代) & Dieckmann Study cohort (50年代)	7560人 (曝露群3844, 非曝露群3716)	1994 までfollow-up	DES	年齢、暦年、 年齢_暦年 (調整) 調査参加時年齢、 年齢、教育、家族歴、 初潮年齢、 経口避妊薬、流産、 最初の出産年齢、 妊娠、閉経療、喫煙 ・ホルモンニ摘出、 ・ス宮摘が、 ・環難で多いが	0.92 (0.60 -	険度(95%CI) 1.39)				

表 2-6-2 内分泌かく乱化学物質と甲状腺癌に関する症例対照研究

		血清レベ	血清レベルの比較				カテゴリー毎のオッズ比					
地域・対象者数 (症例/対照)	化合物		対照	P値	1.00	2	3	4	P trend			

該当文献なし

		血清 レベル	血清レベルの比較			カテゴリー毎のオッズ比					
地域・対象者数	化合物	症例	対照	P値	1(低)	2	3	4 (高)	P trend		
Grimalt, 1994 スペイン、カタロニア 有機塩素化合物工場の近隣住民 1980-1989年 5003名(男性2531) 大気中HCB濃度は対照地域より約100f	HCB 音高い	平均血清HCB濃度(nc 曝露地域26 μ g/L(7.5· 対照地域4.8 μ g/L(1.5	69)		SIR (95%CI) 男性6.7 (1.6- 女性1.0 (0.14	-28)					
Schreinemacher, 1999 米国 ミネソタミ州の 4 地域 1980-1989 白人	ethylenebisdithiocarbamates などの除草剤(?)				男性 第一地域: 0.60 (0.29-1. 第二地域: 1.88 (0.69-5.	(小麦、とうもろ。 10) (ポテト、小麦、 <sup>-</sup> 44) 45)	大豆地域)	剤使用が多い)			
Schreinemacher, 2000 米国 白人 クロロフェノキシ除草剤で処理する spring wheat/durum wheatを生産 するミネソタ、ノースダコタ、 サースダコタ、モンタナ州。 計152の郡 1980-1989	クロロフェノキシ除草剤				男性: 23000-11099 111000エー: 女性: 23000-11099	)(郡の小麦作付! 99エーカー; 1.34 カー以上; 1.88 (0. 99エーカー; 0.78 カー以上; 0.93 (0.	76-4.62) (0.38-1.62)	一に対して)			